

審査会レポート

日本木青連平成30年度会長 鈴木興太郎氏

我々、日本木青連は、木材に関わる川上から川下まで、川上では実際に山で木を切っているようなメンバーから、川下では木造の工務店や大工、家具製作まで幅広い業種の若手メンバー、原則45歳までのメンバーで構成される団体です。エリアとしては北海道から沖縄まで全国より参加し、現在約900名が所属しています。メンバー間の相互啓発・木材の普及・木材を通じた社会貢献を目標に活動し60年以上続く団体です。木を切ることや木製品を使うことを環境破壊だと言われてしまうことが多いのですが、日本をはじめとする人工林の多いエリアではむしろ逆のケースが多く、木を切って使ってまた植えるというサイクルがとても重要です。木を使うことはとても素晴らしいことで、地球環境を守ることにも繋がるのだということを伝え広めていくために頑張っています。そして、昨年1年を表す漢字が「災」ということもありましたが、本当に災害の多い1年だったと感じています。気候変動の影響もあり、今後もこの流れが続くかもしれません。我々としては、木材を使った災害復興支援ということに少しでも貢献できるよう頑張りたいと考えておりますので、ウッドトランスフォームシステムの実現と普及に努めていきたいと考えています。ぜひ、このコンペティションを通して皆様からのお力をお貸しいただけたら幸いです。



特別協賛 株式会社セールスフォース・ドットコム 専務執行役員 伊藤孝氏

セールスフォースの伊藤と申します。今日はこの会に呼んでいただきありがとうございます。

セールスフォースという会社は、サンフランシスコでクラウドサービスを提供している会社です。ちょうど1999年、20年前にサンフランシスコで創業し、この3月8日で20周年になります。そして創業以来様々な社会貢献活動に注力しており、たとえば先ほどご紹介のあった災害でも、細々と我々のできることをさせていただいております。特に震災の後の被災証明のプロセスですが、大変時間がかかります。その処理を高速化できるクラウドサービスを無償で提供させていただいています。

そして今回、審査会での先生方のお話を伺いすごく勉強させていただきました。私は、最終選考に残った作品をみていて「部戸を活用した防災拠点」に高い評価点をつけていました。アイデアということで言えば「木製ボウル兼ヘルメット」はとても良いアイデアだと思いました。その中で、トランスフォームという意味の原点に立ち返り、王道的な作品であった「ムービングデッキ」をセールスフォース・ドットコム賞に選びました。



審査委員長 伊藤滋先生



私は昭和30年に農学部の林学科を卒業し、その後昭和32年に工学部の建築科を卒業しました。そのため森や木材のことには人一倍の思い入れがあります。また、昭和29年の洞爺丸事故で無二の親友が亡くなっていて災害ということについて強烈な印象が残っています。

林学、建築学の両方を抱えながら災害のことも含めて都市計画やってきて90歳近くなりました。今回、この機会に審査委員長を務めて、いつもの調子でやってしまいましたが、審査は納得のいく形に収まったと思います。避難所での母親を支援するアイディアが優秀作品に選ばれたことは良い事だと思います。

こうして孫の世代のような若い人たちとお付き合いができてとても嬉しく思っています。本日は、どうもありがとうございました。

石川永子先生



今回自分がはじめに選んだものも入選作品に入っていますが、それ以外の作品でも、審査員の皆様からの説明や意見を聞くと面白いと思う作品がたくさんありました。私自身も非常に勉強になりましたし、トランスフォームがどういうものなのか、とても考えさせられました。背景にある様々な社会的な防災の問題についても勉強になりました。どうもありがとうございました。

大木聖子先生



審査をしていると、災害時のことをとても一生懸命考えてくださった応募者の方が多く嬉しく思います。また、入選した作品は、災害時のことをよく考えるきっかけになっているアイディア作品ばかりで、そういうきっかけになったアイディアコンペティションだったと思いました。防災をやる立場として嬉しく思っています。

また、鈴木会長が冒頭の挨拶でお話していた木は循環型資源で、使うことが社会や環境にとって良いことだということをもっと多くの人に伝えていかなければいけないと改めて思いました。東京オリンピック・パラリンピックが良い機会になればと思うのですが、オリンピックの後も、木について伝えていければと思っています。

小林博人先生



応募作品は本当に一枚ずつ丁寧に拝見しました。自分もトランスフォームというアイディアをいろいろと考えていたつもりですが、「なるほど。こういう発想もあるんだ。」というのを教えてもらえるような作品が多く、とても豊かな体験をしました。また、審査員の皆様と話し合いをしている中でも様々な発見があり、こういう風にアイディアを集めて共有することがとても大事なことだと思いました。そういうことを積み重ねると、みんなの防災意識も高まりますし、木ももっと使われるようになると思います。第2回コンペの開催、そして活動の継続に期待しています。ありがとうございました。



坂茂先生

全部で214件応募があったそうですが、素晴らしいことだと思います。一般の方もそうですが、特にジュニアの方もこういうことに興味を持つことは、今の新しい傾向として素晴らしいことだと思います。そして、こういうことをサポートして啓蒙していくこのコンペ自体も意義のあることだと思います。僕は、実はコンペの審査員は一切引き受けないことにしているのですが、これは特別に引き受けさせていただきました。それぐらい非常に意義のある催しではないかと思っています。



古久保英嗣先生

私は普段あまり防災のことを深くは考えたことはなかったので、審査員のお話を聞いたときに「ずいぶん変わったことをやるなあ」と感じました。気楽に引き受けたものの、応募作品を拝見した時、実際に被災された方から共感が得られるものを選ぶというのは大変な難しい事だと思いました。ただ、本日の皆さんとのディスカッションは充実したものとなり、大変良い作品が選ばれ嬉しく思っています。今日はどうもありがとうございました。



渡會清治先生

最初にこの話をお伺いした時は、トランスフォームというもののイメージがいまひとつ掴めないところがありました。しかし、200を超える応募作品をひとつひとつ丁寧に見ていくと、プロの方が描かれたようなプレゼンも含め素晴らしい作品が数多くあり、非常に驚かされました。最終審査の中では、「ムービングデッキ」がトランスフォームという意味で良いアイデアだったと思いました。今後もこの取り組みを続けられるというお話なので、ぜひ頑張っていたいただければと思います。ありがとうございました。



鈴木興太郎会長

元々は「ウッドトランスフォームプロジェクト」として平成28年度に始まった企画で、その時は公園のフェンス・デッキが応急仮設施設に変形するものを作りました。その後、もっと様々なアイデアがあるのではとの声が上がリ、このアイデアコンペを開催するに至りました。多くの方から頂いた応募作品を見ると、乳幼児の視点、ペットの視点、高齢者の視点といった我々に無い視点が数多くありました。その意味で開催して本当に良かったと思います。本日は、本当にありがとうございました。



川添恵作副会長

今回の審査会で、私は日本木青連の会員としての発言を主にさせていただきました。会員の皆様も応援に駆けつけてくださっている中で、素晴らしい審査員の皆様と席を共にできたことは、非常に良い体験をさせていただいたと思います。ありがとうございました。今後とも日本木青連のことをよろしく願いたします。



審査会後 記念撮影